



LIBRARIES

UNIVERSITY OF WISCONSIN-MADISON

北海紀行 = Hokkai kikō. [vol. 3] 1874

Hayashi Kenzō

Jordanō: Kaga Kanazawa, 1874

<https://digital.library.wisc.edu/>

<http://rightsstatements.org/vocab/NoC-US/1.0/>

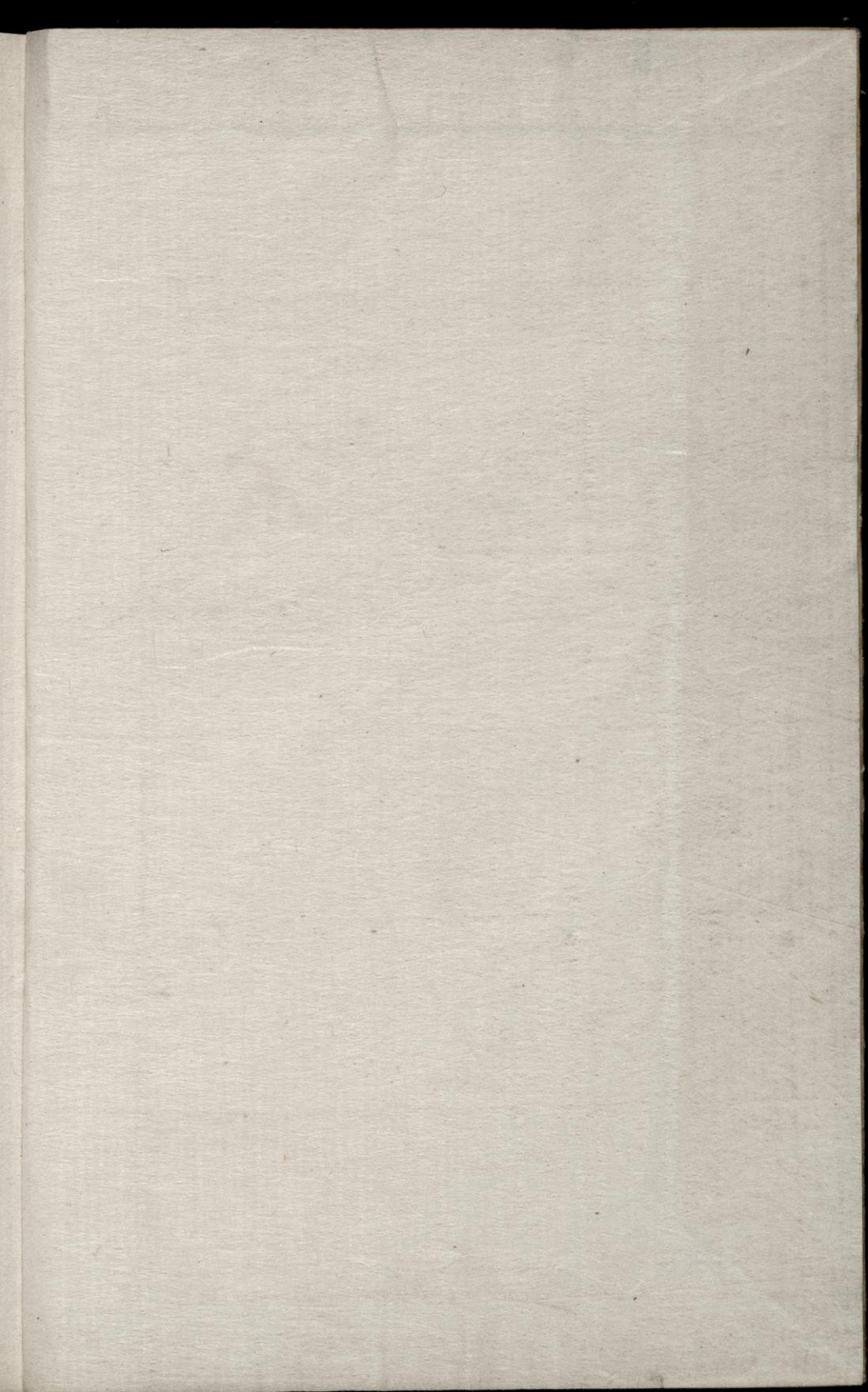
The libraries provide public access to a wide range of material, including online exhibits, digitized collections, archival finding aids, our catalog, online articles, and a growing range of materials in many media.

When possible, we provide rights information in catalog records, finding aids, and other metadata that accompanies collections or items. However, it is always the user's obligation to evaluate copyright and rights issues in light of their own use.

林顯三編
河崎曾平閱

北海紀行

三



林顯三編 北海紀行卷之三
河崎曾平閱

加賀

林顯三編
河崎曾平閱

六月八日曇天 暑寒辰 午前五時檢 五十二度

午後一時檢 六十五度 東京正午 七十一度

午前六時幌別ヲ發シテ白老ニ至ル 里程六里三

十二丁三十四間幌別ヨリ一里半許ニシテノホ

リベツト云村アリ戸數十軒許トモ旅亭ナシ

此処ヨリ山中一里許ニシテ温泉アリ入浴者ニ

奇功アリ右温泉ヨリ流レ出ル支流村端ヲ過キ

テ海へ注ク幌別ヨリ此邊ニ至ル左右凡平坦ノ
地アリト雖モ「ヤチ」地ニシテ善良ナラス此邊ハ
殊ニ硫黄氣アリテ土錆テ苗色ヲナス植物ニア
シ、此邊漁業ハ鮓等ノ産アリ二里餘ニシテ幌
別ト白老郡^{シラフイ}ノ領境アリ此邊一面ニ萩原ナリ木
萩ニシテ葉細ク草萩ニ類セス二里二十九丁餘
ニシテ字ヲ「ヒンナイフ」ト云道標アリ是ヨリ
白老へ四里此邊平坦ノ地ト雖モ地面尺許下タ
ハ小崑雜リナリ麥大豆ヲ蒔テ可テラン此邊海
崖ニ横倒レタル枯木ニ大鷲ノ棲ムヲ見ル其間

遠シト雖モ大キサ續ノ如ク灰色ニシテ且ツ黒
班アリヒンナイフトヨリ一里ニシテシキウト
云蝦夷人ノ村アリ戸數三十軒許右ノ手前ニ川
アリシキウト云此処ヨリ白老へ三里

土人住家ノ傍ニハ必ス地上ヨリ八尺許ノ置揚
臺ヲ設ケタリ以多テ分組立木ツツ其上ニ大約四五尺許

ノ茅葺ノ小サナル家ノ様ナルモノヲ設ケ戸縮
ヲナシ置ナリ是ハ土人常ニ食料魚肉ノ類ヲ入
レ置ク為ナリ俚俗名ケテ土人ノ藏ト云
白老村ノ手前ニ白老川ト云大河アリ水源シユ

ツ岳ヨリ流レ奥深クシテ暴雨霖雨ノ折ハ二三
丁内外ノ間漲浸シ通路是カ為ニ阻梗ス此頃新
道開ケシヨリ此害ヲ除クタメニ道ヲ迂遠ニナ
シ堤防ノ設ケアリ此河ニテ秋味漁盛ナリ午后
二時白老ヘ著

白老

戸數十軒

會所

野口又藏

役邸一軒

土人家三十軒許

産物

鮓 鮓

カスヘ

昆布

都テ此邊ノ土人ハ淳朴ニシテ古風ヲ存シ他地
ノ土人ト少シク異ナリ定ツテ食事ヲナスナク

常ニ魚獸ノ生肉乾肉ヲ食シ或ハ會所ヨリ某ノ
會所ニ至ル十里内外常ニ往來シテ終日食ヲ携
ルヲナクシテ足ル會所ヨリ使役ノタメ米ヲ與
フレハ之ヲ醴ニ釀シテ食料ノ代リニ充テ或ハ
魚肉獸肉ノ類ヲ獲レハ頻リニ之ヲ喰ヒ或ハ湯
煮シテ寐ルモ尚枕ノ邊リニ置テ之ヲ喰テ飽カ
ス都テ土人ノ男子ハ鹿裘ヲ著ス
土人ハ殆ト蠻野ニ似リト雖モ禮讓ノ篤キト狡
黠ノナキヲ以テ見レハ其性一種ノ質アリ其由
ル処ハ畢竟無欲ヨリシテ斯ノ如シ土人痘瘡ヲ

殊ニ忌ム其一郡内ニ流行スレハ其地ヲ離レテ
 山間ニ入ル若シ此病ニ罹ルハ太タ重シ之レ
 常ニ肉食ヲ主トスル故ナラン顯未タ土人ノ痘
 痕アルヲ見ス若シ一家内痘ヲ患レハ忽チ其家
 ヲ自焼シテ去ル亦土人鬭爭ヲナシ或ハ密夫ヲ
 ナセシ者アレハ之ヲ村長ニ告ク村長之ヲ會所
 ニ訴フ土人^ノ之^ヲ云^フ差配人番人等之ヲ判斷ナシ
 或ハ仲直シニ酒ヲ吞シテ済スモアリト云々
 都テ年分會所ニテ使役スル給料ハ日々帳記シ
 年未總決算ヲナス是ヲ「オムシヤト云米酒煙草

塗物着類吳服ノ類ヲ以テ決算ヲナシ敢テ金ヲ
以テセズ此ノ決算マデハ米酒ノ類ハ使役ノ度
數ヲ見計フテ會所ヨリ遣シ置ナリ各地會所ニ
依リ其趣ニ差違アリオムシヤノ日ハ土人年中
ノ祭りヲナシ酒肴ヲ設ケ各打寄村長ハ陣羽織
ヲ着シ一坐皆古代ノ淨瑠璃ナドヲ唄ヒ頗ル愉
快ヲ極ムト云ヘリ

土人熊ノ子ヲ獲レハ之ヲ愛シ丸木ニテ組建タ
ル欄内ニ容レテ養育シ大凡二十三四月ニ至
レハ毒箭ヲ以テ之ヲ射殺シ其皮ヲ剥キ其軀ハ

埋葬シ頭ハ木ノ先ニ貫キテ之ヲ祭リエナ^レナ^エ
テ^ハ木^リニ^カテ^作トリ^{タル}幣^ニナ^似リ^{東京}ニ^ヲ立^テ酒肴
ヲ設ケ各打寄テ酒宴ヲナス之ヲ^シソ^ヲクリト
云

土人舟ヲ造ルニ大凡長サ一丈餘幅二尺餘モア
ル角找一片ヲ剝彫シ兩片ヲ合セ之ヲ掬ノ皮ヲ
以テ縫合セテ舟トナシ七尺許ノ楫二本ヲ以テ
左右ノ手ニテ之ヲ遣フ亦妙ヲ得タリ河ニ沂リ
濤波ニ向フテ行ニ太タ速ナリ此楫ノ遣方ヲ車
返シト云或ハ処ニ依テ大ナル丸木ヲ彫抜キテ

舟ニナスモアリ此舟ニ付一話ヲ聞ケリ先年東
海岸「クスリ」ノ土人斯ノ舟ニ乗リクスリ河へ游
リシニ出水ノタメ突流セラレテ忽チ海上へ出
シニ折節風波太タシク漂流スルヲ數日辛フレ
テ函館ニ著ス同所地藏町米屋某之レノ憫ミ扶
助シテ養ヒ尚今ニ存在セリト
此邊鹿ノ澤山ナルハ北海道中最モ盛ナル所ナ
リ雪途ニ至テハ山間ヨリ出ル所ノ鹿二三十疋
モ群ヲナシ海邊ノ雪際へ出テ食ヲ求ム土人之
レヲ捕ニハ三四名謀シ合セ三方ヨリ馬上ニテ

聲ヲ掛ケ逐驅ス鹿逐レテ海へ入ルアリ以テ之
ヲ獲ル多分ハ鋌砲ヲ以テ撃ナリ

六月九日晴 暑寒辰 午前六時檢 五十五度 午

右五時檢 六十九度 東京正午 七十九度

午前七時三十分白老ヲ發シテ勇弗ニ至ル里程
八里二十七丁二十八間此邊土人裸馬ニ跨リ縱
横ニ驅逐ス其術亦妙ヲ得タリ或ハ夜分野ニ放
シタル処ノ牧馬ヲ翌朝捕ルニ其自由亦感ス可
シ一群ノ内其一馬ヲ捕フレハ餘馬ハ亦逃逸ス
ルヲナシ馬上石筆ヲ採テ戲作ス

觀蝦夷人捕牧馬戲作

倏忽見馬群、疾來如走雲、自山際又阜、驅逐馬上
獾、虎、髯龍、眉威、鹿、裘、窄袖衣、帶山刀、一挺、針髮如
麻、揮疾、驅揚鞭來、神速似奔雷、縱橫作出沒、數馬
捕一回、腰間數尺繩、大喝一聲應、投繫一馬首、立
止如俟朋

白老ヨリ二十丁許ニシテジヤタイト云村アリ
白老ト勇弗ノ領坂也土人家二十軒許同所ヨリ
一里ニシテベツベツト云村アリ土人家アリ二
里ニシテ垂舞ト云処アリ土人家出稼茶店アリ

此邊都テ一里餘ノ処左右一面茫々タル水平原
 ト雖モ焼土ニシテ地面ヨリ七八寸下タハ植物
 生育シ難シ是ヨリ艮ノ方四里許ニシテ垂舞山
 ト云高嶺アリ往昔是山ノ絶頂焰焼シテ砂石ヲ
 吹出ス方四五里許此ヨリ勇弗ニ至ル太抵ハ
 焼土ナリ信州淺間ノ焼野ニ同シ然レモトマコ
 マイヨリ彼方ハ地味漸々ニ宜シ苫小前迄白老
 ヨリ五里此邊左右凡澤或ハヤチ地多シ苫小前
 ヨリ半里許手前ニシテ小糸魚ト云処アリ人家
 五六軒萬吉ト云旅籠屋アリ苫小前ハ札幌新道

勇弗街道ノ追分ナリ此処ヨリ勇弗へ三里千歳
へ七里此処ニ近日ヨリ驛馬繼立所ヲ定メラル
、由茶店出稼家七八軒アリ勇弗街道へ五六丁
ニシテ「マコマイト」云処アリ午飯ヲ喫ス此処ニ
テ白老ノ土人「セイガイ」ト云者馬ヲ牽来レルニ
酒ヲ與フレハ箸一本ヲ以テ酒一滴ヲ捧ケ日神
ヲ祭り又一滴ヲ捧テ海神ヲ祭り尚一滴ヲ捧テ
河神ヲ祭り而シテ之ヲ吞ム從來ノ古風ナリ午
后二時勇弗著
勇弗 會所 函館商メ一 印山田文右衛門差配

ナリ

出稼家 三軒 役邸 一軒 土人家二十五

六軒河ノ向ニアリ

産物 鯰 鮭 鱒 カスヘ 鰈 鯢イナ

土人細工所アリ會所ヨリ之ヲ設ケ土人ヲシテ
鞍ヲ造ラセ或ハ楡皮ニレヲ以テ繩ヲ綯ヒ或ハ舟ヲ
造ラセ壯健ナル者漁業ノ隙ニハ此処ヘ集テ使
役シ日々ノ食料ヲ與ルナリ會所ノ東ニ勇弗河
ト云大河アリ鮭夥シ此所ヨリ沙流ヘ九里千歳
ヘ七里

白老ヨリ勇弗ヘ至ル間水平面ノ廣原ナリ就中
勇弗ノ邊ハ最モ水平面ニシテ能ク遠望ヲ達ス
此頃開拓使ニ於テ洋人ヲシテ全島一圓ノ度數
ヲ測量シ地圖ヲ精詳ニセント旣ニ此地ヘ發途
セリト云々

六月十日快晴

暑寒辰

午前六時檢

五十六度

午后二時檢

八十三度

昨夜十時頃ヨリ寒氣肌ニ徹シ手足厥冷ス都テ
此邊暑寒ノ度ハ日中ト日没后ト大ニ差ヲ生ス
此日午前六時勇弗ヲ發シ千歲ニ至ル里程七里

ナリ一里ニシテ字「トム」ノシケクシヘツト云
 傍示杭アリ二里ニシテ字「ウツナ」イト云是ヨリ
 少シ先ニ「ウツナ」イト云大凡一里方許ノ大
 沼アリ此邊平面ナル地アリト雖モ多分ハ「ヤナ」
 地ナリ三里ニシテ字「ヒ」イト云四里ニシ
 テ「ウ」エンナイト云所アリ勇弗會所ノ炭焼小屋
 アリ土人家三軒アリ傍示杭ハ此処ヨリ三四丁
 先ニ建テリ之ヨリ千歳ヘ三里ナリ五里ニシテ
 「ビ」イト云処アリ此所ニ茶店一軒アリ少シ
 先ニ勇弗ト「コ」イトイトノ追分アリ勇弗ヨリ千

歲ニ至ル間山路或ハ砂地ニシテ農耕ヲナスニ
適宜ノ地ナシ午后二時十五分千歲ハ著ス此日
日中暑氣熾ニシテ春來未タ之ナキ暑度ナリ

千歲 會所 山田文右工門

役邸 二軒 出稼家十二軒 土人家二十七

軒

產物 鮭 三十石 熊 鹿

千歲ノ河ハ會所ノ端レニアリ水源七里許ニシ
テシユツ沼ヨリ出ツ此河秋味ノ漁業盛ニシテ
每歲夥多ノ魚ヲ得然レモ塩ニ乏シクシテ常ニ

漁り盡ス事能ス此地山中ニシテ海邊ヲ離ル、
七里許ト云凡斯ノ如キ河產物アリ河幅大凡二
十四間此頃開拓使ヨリ橋梁ヲ掛渡シテ從來ノ
假橋ヲ除ケリ此邊開墾ヲナスニ十分ノ地ナシ

六月十一日快晴 暑寒辰 午前四時四十五分

千歳ニテ檢 五十三度 午前三時三十分札幌ニ

テ檢 七十二度

午前五時發千歳至札幌里程十一里一丁

千歳ヨリ二里半ニシテ「イサリ川」ト云川アリ此
処ニ土人家六軒許少シ先ニ「モウイサリ川」ト云

アリ西川^庄秋^味夥多ノ地ナリ昨秋ハ人少ニシ
テ取餘リ川中ニ死スル魚幾多ナリト云此邊ヨ
リシマ、ツプ邊ニ至ル左右橋ノ木繁息セリ四
里半ニシテ^レマ、ツプト云地アリ山懷口ニシ
テ地味宜シク開墾ヲナスニ宜シ然^レモ區域廣
カラス一昨年白老郡垂舞農中山久藏ナル者當
地ニ来リ地味ノ宜シキヲ見テ農耕ヲ起シ家屋
ヲ營ミ昨年ハ麥八十俵其外大小豆瓜茄子麻野
菜ノ類幾許ヲ得タリ其頃ハ未タ近在ニ人家ア
ルコトナシ當時漸々出稼假小屋ヲ營ミ茶店等ノ

備ヲナセリ就中此頃建築掛土工人夫新道傳信
機ノ為メ百名許モ天幕ヲ用ヒ或ハ假屋ヲ營ミ
テ此邊リニ屯集セリ之カ為ニ十五六軒モ飯店
ヲ設ケ酒食餘肴諸品ヲ商ヒ或ハ下賤ノ賣婦ノ
類ヲ置キ頗ル賑ヘリ近々ヨリ此処ヲ驛馬會所
ニ定メラル、由右中山ナル者衆ニ先立チ開墾
ノ作業ヲナスニヨリ奇特ノ趣書取ヲ以テ客冬
開拓使ヨリ金四十圓ヲ賜リシ由昨年取揚高一
反歩ニ付小豆一石八斗大豆二斗八升ヲ得タリ
ト大根瓜粟麻午房ノ類別シテ肥沃セリ中ニモ

西瓜ハ目形三貫百目ノ者ヲ生ス風味モ宜キト
云リ本縣ヘ送ラシカ爲メ昨秋得タル処ノ麥粟
大小豆類少許乞得タリ又今朝獲タル所ノ鹿肉
ヲ喰フニ風味宜シ此邊ヨリ山路ニ掛リ地味宜
シト雖モ土地凸凹樹木繁生シテ開墾ヲナスニ
ハ不便ナリ

千歳ヨリ六里許ニシテアソシベト云所アリ土
人家四五軒出稼茶店アリ此処ヨリ二里ニシテ
ハシスベツト云所アリ出稼茶店等四五軒アリ
此処ヨリ少シ手前ニ平坦ノ処アリ開業ヲナス

ニ地味宜シ尚一里ニシテ月寒村ト云アリ開拓
使ヨリ南部ノ農民廿五戸ヲ募移シ一昨年ヨリ
大ニ開業ヲナス此節菜花盛ンニシテ夏大根能
ク繁肥セリ麥ノ丈ケ八寸許伍長五名ヲ置キ五
戸ニ一人ヲ添ル此村入口ヨリ札幌マテ二里餘
午後三時廿分札幌脇本陣著

六月十二日 暑寒辰 午前五時三十分檢 五十

三度 午時檢 七十度 東京正午 七十九度

石狩國札幌郡札幌

當地ハ山際ヲ離ル、ヲ稍遠ク石狩河へ最近キ

所四里許皆平坦ノ地ナリ最モ平面ニシテ遠キ
者ハ徑十五六里ノ内外ニアリ地味肥沃萬種ノ
植物繁生ス北海道全州ノ内渡島國龜田郡石狩
國札幌郡右二郡開墾ヲナスニ最要ノ地トス郡
中寒暖度數徃々差違アリト雖モ山海ヲ公ル稍
遠キヲ以テ寒威モ亦稍穩ナリ三四年前迄ハ當
所ハ人家モ二三軒ニシテ餘ハ寂寞タル原野ナ
リシニ一昨年ヨリ爰ニ開拓使本廳ヲ置レ漸々
樹木ヲ伐リ役局役邸ヲ營繕シ大ニ人民ヲ集合
シ且ツ四周唇齒相扶ノ地ニ農民ヲ募移レ開墾

ヲナサシメ令ヤ既ニ一都會ノ光景アリ北ヨリ
 東ノ間ニハ石狩河ノ大流ヲ帶ヒ西ニ小樽ノ要
 港アリ南ニ函館ヨリノ新道ヲ開キ室蘭港ヲ距
 ルヲ三十里四周四達ニシテ能ク人民ヲ化育ス
 可キ地ナリ一昨來官金ヲ仰キ一時蟻集ノ徒ハ
 永世不拔ノ產ヲ立ル者稀ニシテ朝進暮退變化
 極リナレ然ト雖モ若干金ヲ私有シ或ハ活業自
 立ノ者ハ家屋ヲ盛大ニシ諸物品ヲ輸出シ商店
 ヲ宏開スルモアリ就中農民ハ多分開農ニ力ヲ
 入レ子孫永續ノ地所トス

當五月改調アリシ市中戸數六百三十四軒

人口千七百八十五人寄留四千七十一人

同郡中總村數十二箇人口二千百三十三人

右十二箇村ハ本札幌村苗穂村岳珠村

篠路村圓山村琴似村發寒村手稻村

平岸村月寒村白石村對鴈村合十二箇

村

市中料店三十六戸旅籠渡世十九戸

薄野郭内貸坐敷渡世二十七戸藝娼妓三百名許

町數二十八名

本廳ハ假營ナリト雖モ此項營繕局ニ於テ本廳
築造ノ設アリ南部ヨリ許多ノ巨材良木ヲ搬運
シ蒸氣器械ニテ之ヲ製作シ日々工職等二百八
十餘名ヲ役シ三階ノ西洋造ニ構成ス近日上棟
式アル由本廳境内縱三百四十四間横二百六十
六間總坪數九萬千五百四坪ナリ

學校アリ資生館ト云當時生徒三十名許通塾生
トモ

醫學館アリ生徒三十名許官費生徒ナリ
假病院兼癩毒院同局ナリ本院ノ落成近日ナル

由是亦西洋造ナリ藝娼妓毎月六度宛黴毒検査
アリ一人一度毎ニ二十錢充検査料ヲ出サシム
邏卒屯所是モ西洋造ナリ邏卒三十六名三員ヲ
一組トシ合セテ十二組アリ總長一員ヲ置ク
市會所並新聞縦覧場共ニ一局ニ置ク縦覧場ハ
何人ヲ論セス閱讀ヲ許ス札幌市中入口ニ豊平
河ト云アリ水源有珠ノ沼ヨリ流レテ石狩河ヘ
注ク此枝流ヲ分水レテ創成町通リ篠路并經テ
石狩河ヘ収ム是ヲ新川ト云專ラ通船ノ便利ヲ
開ク石狩邊ヨリノ運輸物皆之レニ頼ル札幌ト

云ハ元ト土人^{アイノ}ノ言語ニシテサチボバ^ロト云サ
チボトハ干魚ト云義^ボロトハ大成ト云義ナリ
豊平河等ニテ秋味ノ許多ニ取^レタルヲ土人ノ
家毎ニ貯ヘ有ルサマヲ云ナリ元サソボロト云
村ハ今ノ札幌市中ヨリ十二三丁篠路往来ノ傍
ラニアリ是札幌ノ本地ナリ

六月十三日快天 暑寒辰 午時 驗 六十八度 東

京正午 七十三度

當所ヨリ坤少ク下リニ當テ常山^{ジャウサン}溪^{ケイ}ト云山アリ
山間ニ温泉アリ札幌ヨリ五里許常山ト云僧ノ

開基セシ温泉ニシテ諸病ニ宜シ今ハ旅籠屋三
軒アリテ大ニ開ケタリ此温泉ノ開ケタル根元
ハ常山諸國ヲ遍歴シ北海道ニ涉リ多年遍歴ノ
際偶々此温泉ヲ見出シ普ク世ニ開カント願望
止マス或片主任官某氏常山並ニ山田屋某外一
名都合三名ヲ集メテ曰ク近日我東京ヘ登ラン
トス汝等ハ當所ニ久敷住馴レ常ニ當地ヲ開カ
ント欲スルノ志アリ何ニテモ申聞クベシト云
レシカハ山田屋某曰ク我商業ヲ開カント欲ス
レ氏資金乏キニ因テ志ヲ達セス願クハ金二百

圓ヲ拝借シテ開業セント又一人ノ曰ク我等商
業ヲナサント欲スレバ目途定ラス願クハ賣婦
ヲ抱ヘ切店ヲナスノ許可ヲ得テ雇工雇夫ニ之
ヲ鬻ント長官笑ツテ曰ク兩人ノ言ノ如キハ一
己ノ活業ヲ謀ル而已常山カ意ハ如何常山曰ク
拙僧ハ世外ノ者敢テ金錢ヲ望マズ商業ヲナス
ノ意ナレ願クハ衆生ヲ濟度シ人間ニ益アルヲ
ヲ起ント長官大ヒニ其意ヲ好ミシ其事ヲ問フ
常山曰ク我山溪ヲ巡ルノ癖アリ之ヨリ五里許
坤ニ當ツテ山中ニ温泉アリ之ヲ開キテ諸人ノ

病惱ヲ救ハント欲スレモ金ナクカラナク其ヲ
ヲ果ス能ハズ願クハカヲ添テ我意ヲ達セシメ
給ヘト云長官大ヒニ喜ヒ之レ土地ヲ開拓スル
ノ意ニ叶ヘリト夫ヨリ地理ヲ調ヘ道ヲ開キ橋
ヲ架ケ浴室泊屋ヲ設ケ地名ヲ常山溪ト名ク常
山此ニ住シテ入浴人ノ宿ヲナレ圖ラステ生
活ノ道ヲ得タリト嗚呼此三人ノ目途其優劣如
何ソヤ常山世外ノ身ナレモ其言ヤ金ク經濟ノ
真意ニ出ツ志高尚ニシテヨク產ヲ制スト云ベ
シ

北海紀行

卷之六

六月十四日快天

暑寒辰

午時檢

六十三度

東

京正午 七十五度

午前十時河崎並ニ札幌ノ住人石黒林太郎同行
篠路通り石狩ニ至ル元札幌村ノ傍ニ生産所アリ
リ牛豕ヲ養蓄ス豕三十七頭太々肥大皆本邦種
馬鈴薯ニ糠ヲ交セテ之ヲ飼フ牛三十二頭南部
及ヒ勇弗種鶏二百羽多分北海道種試檢ノ為メ
開ク所ノ水田アリ南部農民之ヲ作ル苗代長ケ
七八寸許此処ヨリ二里十五六丁許ニシテ岳珠^{ツカタマ}
村領ニ養蠶試檢処アリ見聞ノ次第一ノ巻ニ書

ス此邊自然生ノ大木桑許多アリ大ナル者ハ廻
リ四五尺三里ニシテ篠路ニ至ル札幌ヨリ篠路
ニ至ル路傍ノ左右大抵開墾地ニシテ菜蔬能ク
繁殖ス

篠路村 戸數二十五六軒

開拓使設置ノ生産所アリ味噌醬油ヲ醸造ス昨
年官釀ノ味噌三百石許醬油二百石餘コレヲ土
地人民望ミノ者ヘ低價ヲ以テ拂下ケラル當地
ハ極メテ草昧ノ地ナリシニ先キニ白川藩住民
清太郎ナル者石狩ノ地ニ來リ諸所經歷シ終ニ

爰ニ来リ地味ノ善良ナルヲ見テ始テ開農ニ志
ス今ヨリ尚十七年前ナリ初メ清太郎舊幕府在
勤中川金之助ノ從僕トナツテ爰ニ来リ屢石狩
ヘ往来スルニ石狩邊ハ秋ノ末霜ノ降ルヲ太タ
烈シ獨リ此地ハ霜ノ降ルヲ石狩ヨリ遅キヲ稍
三十日許爰ニ於テ始テ菜蔬ノ霜害ヲ受ルノ少
キヲ知リ耕稼ヲ起シ菜園水田ヲ試ミシニ果シ
テ大ヒニ宜シ諸種皆肥沃ス刻苦シテ私有地ヲ
開キ不動產業ヲ盛ニス夫ヨリ漸々人民移住シ
今ヤ一村ノ體裁ヲナセリ札幌市中ノ新川シンカ此處

ヲ通り石狩へ注ク其所ヲ篠路「アト」ト云フト云フ
テ「ト」云ハ土人ノ言ナリ當処ヨリ間道ヲ行ケハ
篠路「アト」迄十五丁舟行スレハ一里十一丁餘
當時出稼家五六軒開拓使荷揚場ナリ五六百石
積ノ船ヲ泊ス開拓使用艦卒未九ト云河蒸氣船
アリ發日定期ナケレモ常ニ往復ヲナス故ニ此
地ハ水運ニ便ニシテ札幌、石狩、小樽等へ水脉通
達シ本府ノ用品或ハ商品ハ小樽ヨリ此処ヲ通
リテ達ス木村萬平運漕出店所アリ此地漸次進
歩ノ景況他日必ス人民輻湊ノ要地トナラン札

幌市端ヨリ當地迄新道開ケ泥淖ノ所ハ往々角
杖ヲ敷キ道路極テ宜シ當地ヨリ石狩ヘノ陸路
ナクシテ大ヒニ不便ナリ願クハ早ク開路ニ至
ランヲヲ札幌ヨリ當地ニ至ル道路左右ノ樹木
秦皮アカダモ_{ト土俗}ハ其葉ハ楓ニ似テ大ヒニ繁リタル
者ナリ或ハ胡桃、桑、野葡萄皆繁茂セリ或ハ小桑
ト云フ蔓幹ノ樹アリ幹ノ大ナル者廻リ二尺許
モアリテ諸木ニ纏繞ス菓實ハ水疾病ニ妙ナリ
此蔓幹ハ纖維粗ニシテ能ク氣ヲ透徹ス野州日
光邊ニバ此レヲ切テ釜置トナス慈悲シヒ真鳥シント焙

印セルモノ此水ヨリ成ル此邊地味善良ニシテ
開墾ヲナスニ容易ナリト雖モ此ニ一ツノ困難
アリ之ヨリ石狩河ノ上字トマ、タイト云処ハ
豊平河ノ石狩河ヘ落合処ナリ霖雨ノ節ハ豊平
河漲溢シテモイリトウト云大沼ヘ流レ此邊地
ノ低キヲ以テ時アツテ洪水ノ憂ヲ醸ス然レモ
近年ハ大ヒニ此憂ヲ免レタリ今ヨリ十一年前
霖雨打續キタル時家屋菜田ヲ流失セシテ許多
ナリ其后ハ些少ノ患ナキニアラスト云厄害ヲ
ナスニ至ラスト夫レ之レヲ防カンニハモイリ

トウヨリ札幌「アド」迄大約二里半許堤防ヲ造
築セハ此水損免ル可クシテ五十萬石餘ノ地ヲ
保存ス可シ他日人民稠密ニ至ラハ必ス此論ヲ
起ス者アラシ

當地永住越後商民田口金平南部農民森山無松
關多助ナト云ル者先年ヨリ農耕ニ勉勵シ此項
頻リニ開墾ヲナス同夜清太郎方ニ泊シ右等ヲ
集メテ地味ノ美惡ヲ聽クニ寒威ノ穩ナルト地
味ノ善良ナルハ石狩州中ニ於テ此地ヲ以テ第
一トス五穀菜瓜ノ能ク繁滋スル中ニモ蘿蔔瓜ダイコン

ノ類ハ殊ニ熟セリト云フ
六月十五日快天 此行暑寒辰ヲ携ヘス因テ
度數ヲ知ルヲ得ス
午前六時篠路ヲ發シ同「ブド」ヲ經テ石狩ヘ舟
行ス

夫レ石狩河ノ巨流ナルハ世皆知ル處ナリ両崖
ノ相距ル四丁餘最深ナル處ハ十丈餘水勢上面
ハ穏流ニシテ水底ハ激流ナリ水源ハ石狩ノ岳
ヨリ出テ海岸ヲ距ルヲ一百餘里實ニ本邦第一
ノ巨流ト云ベシ往昔ヨリ其水源ヲ極タル者ナ

カリシニ安政度伊勢ノ松浦多氣四郎跋渉盡カ
シ終ニ其源ヲ究ム之レ其源ヲ知ル始メナリト
云リ水勢一度激怒スル時ハ方四五里許ノ地之
カ為ニ漲溢シ樹木郊原ヲ横流ス之レ四方皆水
平面ナルカ故ナリ

石狩河ノ末篠路ヨリ二里半許ニシテ字ハシナ
グロト云ルアリ土人家等七軒アリ石狩ヨリ十
一二丁手前ニシテ上ムシンリフト云アリ石
狩河ノ支流ナリ水路峻ナルヲ以テ通常此支流
ヲ通航ス此兩岸ニ自然生ノ菅繁生ヒリ午后三

時冊分石狩市中佐渡屋八左工門方ニ泊ス中集
石狩戸數ニ百六十戸人口千人餘
河ノ左右共人家アリ河ノ左岸ニハ波止場並ニ
開拓使出張所暨ヒ役邸其外木村萬平出店所其
他出稼家六七軒アリ河ノ左右ニ高槽アリ舊幕
府ノ頃秋味ノ節ハ役人此槽上ニテ鮭ノ登ル多
少ヲ檢査シ何分ノ税ト云フヲ定メタル由ナリ
客歲石狩河ヘ鮭ノ登ルヲ夥多ニシテ人カノ取
盡スヲ能ハスレテ是ヲ漁ルモ塩ニ盡キ賣敗ス
ルニ及ヒシト大約客秋鮭ノ為メニ費ス處ノ塩

ノ員數一萬俵ニ下ラス然ルニ鮭大漁ニシテ塩
不足シ初メ塩一俵一歩一朱ノ処後ニハ一兩二
歩迄ニモ至レリト云フ

當地春夏ハ寂寞トシテ大ヒニ不景氣ナリ是レ
他ノ業ナキニ由テナリ然レモ秋味ノ頃ニ至レ
ハ一時其繁華ナル事他ニ類スルナシ諸方ヨリ
集合スル処ノ寄留人毎年二千人ニ下ラス同所
河縁ニハ悉ク假小屋ヲ營ミ餅菓酒肴其他諸品
ヲ鬻キ旅泊空屋ナク家婢賤娼ノ類相集リテ客
ヲ饗ス其雜沓亦云可キナシト是カ為メ市中甚

タ繁昌ナリ商家ハ都テ年分ノ利潤ヲ此時ニ得
ル故ニ此頃ハ大ヒニ不景氣ナリト此河ノ水戸
口ニ至レハ河幅大凡六七町許然レ平常ニ砂石
ヲ吐出シ洪水ノ節ハ太木ヲ流出シ是カ為メ河
口処々堆積シテ船ノ進入スル太タ習ヒアリト
河口ニ千石積以上ノ船六艘碇泊セリ

六月十六日晴天 暑寒辰 東京正午 七十九度

此河水海口へ突流スルニ由テ沿海之カ為ニ水
味ヲ異ニシ他ノ漁業益ナシ唯鮭ノミヲ以テ當
地ノ一大產物トナセリ

午前六時三十分石狩ヲ發シテ札幌ニ至ル里程
十一里二十八丁三十間

石狩ヨリ錢函ニ至ル六里十八丁ノ間皆平面砂
地ニシテ百合ハナ薺ナシ其外ノ草花滿地錦ノ如ク恰
モ秋野千草咲亂レタルニ似タリ

石狩ヨリ五里許ニシテ小樽内川アリ川幅三間
許茶店一軒アリ此処石狩國石狩郡ト後志國小
樽郡トノ領境ナリ是ヨリ錢函へ一里半札幌へ

五里十丁三十間
錢函ハ張ハル碓スヲ係セテ小樽出張所管下ノ第三區

トス

錢函戸數 百六十九戸 人員七百二十四人

内男 三三
女 三三百三十九十二人

都テ此邊ハ漁業而已ニテ敢テ他ノ業ナシ是ヨ

リ小樽ヘ三里三十四丁ノ間多分人家陸續セリ

錢函ヨリ二十九丁三十間ニシテ手稻村ト云フ

リ此処後志國小樽郡石狩國札幌郡トノ領境ナ

リ是ヨリ二里半許ノ間ヲ總テ手稻村ト云開拓

使募移農民元ト仙臺藩片倉小十郎從屬五十戸

昨年ヨリ開農ヲナストイヘ凡未タ實功ヲ見ス

家屋ハ殘ラス茅葺ニテ棟柱ハ繩括ナリ地味ハ
 多分宜シ然レ厩前面山ヲ帶ヒタルカ故ニ霜ノ
 降ルヲ早シ是ヨリ發寒^{ベツサ}村邊ニ至ル迄山脈壘々
 トシテ霜ノ早キヲ篠路邊ヨリハ大凡一旬許早
 シト云フ

札幌ヨリ一里半許ニシテ發寒村アリ開拓使募
 移農民二十戸許アリ地開豁平坦ニシテ膏腴ナ
 リ唯霜ノ早キヲ以テ憂トス當村農長谷川何某
 ト云者昨年東京ヨリ米^メ利堅^{ケン}ノ馬鈴芋^{シヨイモ}三升ヲ得
 テ是ヲ種ニシ秋ニ至リ取揚高七俵ヲ得タリ風

味宜シク少シク粘氣ヲ帶ヒ甘味アリ薯蕷^{ジエンジョウ}ニヨ
ク似タリ國種ノ馬鈴芋ヨリハ大イニシテ一ツ
ノ目形四百目許モアリト客年ノ比較ヲ以テス
レハ當年ハ七百俵許ヲ得可シ大豆一反歩ニ付
昨秋ハ六俵ヲ得タリト云フ

錢函ヨリ四里十丁餘ニシテ琴似^{コトニ}村ト云アリ募
移農夫二十五戸許アリ此邊都テ平坦ニシテ地
味宜シ琴似川此処ヲ流通ス此川秋味ノ登ル
盛シナリ

札幌ヨリ二十丁許手前ニ圓山村ト云アリ募移

農夫盛ニ開耕ヲナス手稻村邊ヨリ札幌ニ至
ルノ間追々私有地ヲ標シ家屋ヲ設ルノ勢ヒア
リ別シテ此圓山邊ハ大ヒニ開耕ノ勢ヒヲ得タ
リ夕五時頃札幌創成橋通小野吉兵衛方ニ投宿
六月十七日晴 暑寒辰 午時檢 七十四度
終日鹿肉ヲ切テ河崎ト俱ニ往事ヲ談ス

六月十八日曇天折々微雨 暑寒辰 午時檢 六
十八度 東京正午 七十六度

河崎ハ明朝本縣ヘ還ントス顯ハ柯太跋渉ノ事
ヲ約シテ午后離別ノ宴ヲナス蜂腰ヲ詠シテ送

別ノ情ヲ述フ

君ト我道ハ二ツニワカルトモ赤キオモヒハ
タハ一筋ニ

八百日行ク君カ船路ノ波風ハ唯スクヨカト
祈ル計リソ

醉中之吟

豪氣衝天怒浪鳴
樽前截肉慰離情

北夷從此須深入
何日到窮彼得城

六月十九日曇天
暑寒辰午時檢七十一度東

京七十四度

午前六時河崎發途本縣ニ還ル馬頭ニ一詠ヲナス

波荒キ蝦夷ノ千島ノ友千島ヒトリ残りテ音ヲノミソ待ツ

石狩河ノ河上トウベツ川ノ奥ニトウベツト云地アリ土地善良ニシテ地平カナリ寒威稍穏ナリ先年兵部省支配ノ時ニ當ツテ其地ヲ開墾セント評議スリシニ己己ノ兵擾ニ由ツテ其事廢セリ昨年ヨリ元ト仙臺藩伊達英橘元伊達家岩手山正一代旧祿石祿從屬タ率ヒ盛ニ開耕ヲナセリト聞ク尚

有司ニ就テ事實ヲ聞クニ果シテ然リ

六月廿日微雨午后折々晴 暑寒辰 午時檢七

十一度 東京 七十四度

或又柯太ノ地嚴冬ノ節ハ土人ノ髭凍リ冰條垂

リテ室内ニ入ルニ尚カラ、ト鳴ルト余髭ノ

凍ルハ左ノミ珍ラシキニモアラス我郷地ナト

嚴冬ノ節野外ヲ行クニ寒風太シキ時ハ鬚髮ニ

冰柱下リテ音スルヲアリ亦王元義カ詩ニ

風劈面疑裂凍粘鬚有聲

午後一時頃ヨリ市外ノ郊野ヲ散步シ豊平河ヲ

渡リテ左方ニ開墾ヲナスニ宜シキ地アリ平坦
ニシテ區域廣シ樹木繁生スト雖モ地味太タ宜
シ此邊ニ開拓使雇エテ住セシムルカ為ニ設ル
穴ノ長家アリ午后五時歸宿

六月廿一日微雨 暑寒辰 午時檢 六十二度

六月廿二日霪雨少シク寒味アリ 暑寒辰 午

時檢 五十八度 東京 七十四度

此日曇天終日々光ヲ見ス午前七時札幌ノ元本
陣石黒林太郎庄内人櫻井誠一郎同行ニテトウ
ヘツ川ノ川上伊達英橘カ開耕ノ地視見ノ為メ

札幌ヲ發シ午時篠路邑早山清太郎方へ著ス此
ニテ午飯ヲ喫シ飯、塩、噌、鍋ヲ調度シ小舟一艘ヲ
借り楫取兩名常松芳太郎ナル者ヲ雇ヒ夫々支
度シ大約四日間ノ用意ヲナシ午后一時四十分
篠路ヲ發舟スフシコサツポロトハ元ト札幌ト
云フ義ナリ篠路ブトウニ引續キタル処ニシテ
ノ一印商秋味ノ漁場アリ二十丁許川上ニシテ
字下[「]トイト云此間兩岸木賊ノ長ケ三尺許ナ
ル者粟散ノ如ク繁生セリ[」]ブトウヨリ一里半計
ニシテ上[「]トイト云アリ[」]ノ一印秋味運上屋ア

リ「フトウヨリ三里餘ニシテ」トウベツフトウニ
 至ル此時日既ニ夕陽ニ傾キ時辰七時ヲ表ス此
 邊人家ナク叢棘ヲ踰シキ苦ヲ數キテ茵トシ石
 ヲ集メテ爐ヲ圍ヒ五人圓居シテ飯ヲ炊キ乳母
 百合草ノ根ヲ堀テ汁トナシテ之ヲ喰フ風味亦
 美ナリ唯終夜蚋蚊ノ盛ニ來テ肌ヲ刺搔スル
 カ為メニ安眠スル能ハス日中石狩河ヲ泝ル節
 鶯或ハ見馴ヌ衆鳥細ヤカニ囀スルアリ或ハ西
 岸ノ柳絮亂レテ雪ノ散レルニ似タリ同行ノ櫻
 井舟中ニテ詩アリ

蕩舟^ラ漫登^ル石狩川　柳岸鶯聲促睡眠
借問行程當別事　夕陽到處有人煙

和韻

顯

兩岸柳鶯利涉川　夏天却是促春眠

此行不為^{メテ}桃源興　拓地移人見暖煙

六月廿三日晴　暑寒辰　東京正午　七十五度

午前五時三十分^アトウヲ發^シテトウベツ川ニ

泝ル川上一里許ノ間地味太タ宜シク萬草長茂

シ長ケ七八尺ニモ及フ併シ水損ノ患眼前ニア

リ兩岸ノ樹枝水上ヨリ一丈許モアル処へ草根

類ノ打掛リタルハ暴水ノ侵セシ徴ナラン此川
鮭ノ登ルコナシ總レテ北海ノ各地細流ナルモ
鮭ノ登ラサルナシ獨リ此川ニ登ラサル所以ハ
是レ水源銕鑛ノ氣アルノ徴ナラン流末ノ砂石
亦銕氣ノ徴ヲ含ム此川鮭ウナギヤマシベアサリリノ類
ハ化育ス此魚類ハ金屬ノ酸氣ニ多ク觸サルニ
ヨル者ナラン兩岸ニ繁茂スル処ノ樹木ハ多ク
柳アサモ秦皮ク胡桃ミ檜ナリ中ニモ山葡萄ノ延蔓セル諸
樹ニ纏ハサルハナシ其蔓幹廻リ二尺許ノ者間
々アリ衆鳥ノ囀スル声耳ニ誼シク中ニモ黑鶇クラヤシ

シナイ、四十雀^{チヤウクシ}、芳原雀^{ヤスハラ}、鷓鴣^{ササガリ}、其外種々奇鳥ノ声ヲ
聞クト雖モ其名ヲ知ラス同行ノ人ニ問ヘテ亦
然リ此川ノ川上トウベツ山ヨリ良材ヲ出タス
槐トハ松ノ類大幹ニシテ長ケ二丈餘モアル者
ヲ山上ヨリ伐リ出シ此川ヨリ石狩ヘ流カシテ
之ヲ鬻クニ莫大ノ金高ヲ得ル先年兵部省支配
ノ節此地ヲ開拓セント樹木ヲ伐ラシメ其手ヲ
下タサントセラレシナレテ己ノ兵災ニテ其
功業止ミタリ今ニ其伐木折々河間ニ掛レリ當
別^アト^リヨリ四里餘川上ニシテ伊達英橘カ開

墾所アリ從屬九十一戸ヲシテ茅藁ノ家ヲ作リ
 木ヲ伐リ地ヲ拓キテ穀類瓜菜ヲ培育セリ各戸
 開墾地大凡二三反歩ヨリ多キハ十反歩許ヲ耕
 ス地味宜シク粟稗麥麻馬鈴薯胡瓜茄子午房ノ
 類ヲ植付タリ漸ク昨年ヨリシテ拓キシ地ナル
 カ故ニ未タ開拓十分ナラス且ツ此地夏日炎天
 打續ケハ河水減少シテ通船スル能ハス亦陸行
 ノ通路ナク近頃伊達氏從屬ヲシテ石狩ヘノ小
 徑ヲ開クト雖モ馬足及ハス獨歩ヲ以テ僅ニ通
 スル程ノ道ナリ嚮キニ伊達氏ハ空知郡ノ地ヲ

官ヨリ借受ケタリシニ空知ハ太タ邊陲ニシテ
昨年其地へ赴クト雖モ通路不便且ツ石狩ヲ離
ル、ト數十里ナルヲ以テ更ニ再願シテ此地ヲ
有セリ此地大ヒニ物産蕃殖スト雖モ他方へ運
輸スル能ハス唯一戸ノ活計ヲ謀ルノ地ナラン
若シ大ヒニ費力ヲ盡シ更ニ新道ヲ開キテ石狩
へ通達シ之レヲ輸出スルニ至ラハ亦有益ノ地
ナルベシ伊達氏ハ此地ヲ墳墓ト定ムルノ意ナ
リ
午后四時后此地ヲ發シテ石狩河ニ至ラント下

ルヲ三里餘ニシテ日旣ニ没シ薄暮ニ舟ヲ急カ
シテ昨夜泊セシ露宿ニ還リ飯ヲ炊キテ食ヲ喫
ス眠ラントスレモ蚋蚊ノ責来ルヲ前夜ニ異ナ
ルヲナシ

六月廿四日曇暉少シク寒味アリ

午前五時三十分此処ヲ發シテ篠路ニ至ル^ト
ウヨリ二里許ニシテ川上ニカマヤウス^ト云処
アリ地味善良ニシテ水損ノ患ナク境域極メテ
廣シ此処ニ土人家一軒アリ都テ石狩ノ河縁土
人住セル地ハ從來水損ノナキ地ヲ擇ミテ住メ

リ故ニ土人ノ住セル地ノ邊リハ水害アルナ
シト楫取ノ者話シケリ午時頃篠路ニ到リ午后
五時二十分札幌ニ歸着ス

六月廿五日曇天折々微雨 暑寒辰 午時檢六

十一度

島中日用ノ采ハ曾テ地産ノモノ無シト雖モ海
路ノ便ナルヲ以テ秋田ヨリ輸入スルモノ甚タ
多レ故ニ他所ニ比較スレハ其價却テ廉ナリ又
常野ノ間ニ種ル所ノ俗ニ岡作リト云采種ヲ當
年支廳ヨリ三十拾石賈入レニナリ來年之レヲ農

民ニ與ヘテ種シムル由シ

六月廿六日曇天微雨 暑寒辰 午時檢 六十五

度

過日近郷野外ヲ巡視セシ處へ再ヒ散歩シ土地ノ景況ヲ熟觀シ午后四時後歸宿ス

北海紀行卷之三終

